

# 蓼科高同窓会報

発行  
蓼科高等学校  
同窓会事務局  
0267-56-1015



生徒がひとつになって取り組んだ「全校ダンス」の映像  
(創立120周年記念番組より)



## 蓼科高等学校 応援歌

同窓会長 芝間 教男

浅井冽氏は明治三十二年に今の県歌「信濃の国」を作詞し、翌三十三年十月に松本師範学校の運動会で発表されました。

当時、明治九年に時の政府が筑摩県を長野県に合併したこと、二十余年経てもなお松本を中心に移行・分県を叫ぶ人々が多くなりましたが、その様な中「信濃の国」は『長野県は一つの国である』と県民の心を一つにすることができた偉大な歌でありました。ところで、蓼科高校の第一



## 生徒のたくましい成長につなぐ

校長 宮澤 和人

日頃より本校の教育活動に、格別なるご支援とご指導を賜り、感謝申し上げます。

今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス対応に明け暮れた一年でした。同窓会の本会総会や東京支会総会への参加など、中心となる行事が中止になってしまったのは、昨年度に引き続き残念でなりません。皆さまの落胆はさぞかしと、お察し申し上げます。

しかし、本校創立百二十周年記念式典に向けましては、両角正芳実行委員長様の力強い

校歌が浅井冽氏の作詞であることは皆良くご存じのことと思いますが、実は第一、第二応援歌も浅井冽氏の作詞であったことはご存じでしょうか。

応援歌は時代背景とともに昭和五十頃から学校では歌われなくなり、これではいけないと奮起された音楽の宮澤先生から「記録に残したいので歌って下さい」と依頼を受け、私はその時初めてこの二つの歌の作詞が浅井冽氏であることを知りました。浅井冽氏と保科五無齋とは二十歳程年の差がありますが、余程気が合

「ダーシツプのもと、今年度五回の式典運営会議を持ち、昨年度から募金活動を続けた結果、お陰さまで会計面も準備面も順調に進めることができました。

さて、新型コロナウイルスの影響で本記念式典とポプラ祭は中止になりましたが、代替行事を実施致しました。十一月二十五日には百二十周年記念講演会を行い、当初より予定されていた、東福岡高校ラグビー部監督の藤田雄一郎先生の講演が実現しました。その模様は、蓼科ケイブルテレビジョンで一二月に複数回放映されました。ま

つていたのでしよう。「信濃の国」同様、蓼科高校に残された校歌・応援歌には、ふたりの学びと調和の熱い想いが込められております。

蓼科高等学校創立百二十周年を皆さんと共に迎えられ、記念事業が無事終了したことにつきまして、募金にご協力下さった同窓生や地域の皆様、またダンスを完成させた生徒の皆さん、企画運営を行なって下さった方々など、全ての皆様方に深く感謝致します。

それと共に、この先人の想いのこもった歴史ある蓼科高等学校の存続を、同窓会としてもしっかりと守っていかねければならない、と改めて応援歌を見直したところであります。

た、すばらしい緞帳と電子グラインドピアノも予定どおりいただくことができました。

さらに、校内では十月十五日に行なった「代替ポプラ祭」、記念式典に合わせて全校で取り組んだ「全校ダンス」は、生徒にとつて大きな達成感をもたらした、同時にたくましい成長につながったと実感しております。なお、全校ダンスの様子は、本校HPからもご覧いただけます。

最後になりますが、この場をお借りしまして、同窓会の皆様のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、今後とも本会のご発展と本校生徒の健やかな成長にご助力を賜ることをお願いいたします。ご挨拶といたし